

刊夕 日六月八

# 常磐毎日新聞

定価 一部全金 五拾銭  
廣告料 五拾二文字 第一行 五拾銭  
日曜祭日の翌日 休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞社



## 山 峡 (一)

生方たつゑ

片品の溪流にかけられた村の橋は欄干も名ばかり、下の張板は風雨に白く曝されて留釘も弛み、片方によつて歩へとカタン、カタンと侘しい音を川の流れる上に響かせ、節目の所でやうやく朽ち止まつた板の隙間からは蒼々と澱んだ淵が見えてゐました。村の子供達は馴れたもので、無造作にどしんどしんと、ふんばるやうにして渡つてゆくのです。恐る恐る自身の重量を爪先で抜く様にして、渡つてゆく私をより返りながら――

「原にゆくんかい？ 右に曲つて一丁もゆくと水車があるから、そこん處から左に折れて一本道をずんずん登つていきな。」  
馬の背の両側に妙な黒い土、あれが堆肥とでも言ふのか、ビク一杯つめ込んで引ばつてゆく爺が教へてくれたのでしたが、行つて見ると、こゝだと思へるやうな道の傍には水車など無く、長い冬の間に使ひ減ら

された薪が亂れたままに積み重つて、背戸が両方から道を狭んでゐました。立ち止まつてちつと聞き澄ませば何處かほつきりわからなけれど、遠くの方で水車らしい音が、身ぢかに鳴き立てるかへるのこゑにまぎれがちに聞き取れるのでした。原と通稱されてゐるのは赤城ヶ原の事を指してゐるのです。晝のお茶時でも

- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
  - 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
  - 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
  - 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
  - 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 【朝】味噌汁・葱 小井  
白に大根  
【晝】ハムオムレツ トマトソース  
【晩】煎り豆腐 (人参 いんげんせん切り入り)

あるのか、あたりは閑として、山葵田を落ちる水が陽にかゞよつてゐました。  
「俺がお爺は晝過ぎから、川場村のをぢごの家へ節句のおかしわを持つてへだんべ。原の畑から、おつつけ歸つて来るべいか。」  
こんな會話をして登つてゆく子供たちもありました何處まで登つても同じ様な傾斜をもつた坂なので、疲

### 常磐文藝

白い夜、  
上原 清  
白い夜です  
白い夜、  
董ばかりが  
香ふ夜  
白い夜です  
涙ばかりが  
星のよに  
白い夜です  
白い夜、  
君と別れた  
夜は白し。

喜多流謡曲仕舞の  
お稽古をお奨め致します  
平町田町六九

喜多流 謡曲仕舞  
白土會  
電話一二七番

平町南町五二一

## 根本婦人科醫院

根本 莊次郎  
根本 貞雄  
電話三四番

### 是非!

御融通には御用命下さい  
萬事便利な御相談に應じます

公債・債券 質物一般  
三井質店  
平・四 電六〇六番

## 婦人科

醫學博士 五十嵐雄二  
手術室 完備

入院 随時  
平町・新川町二二  
五十嵐醫院  
電話番號變更 電話三六九番

## 耳鼻咽喉科専門

大和田醫院  
平町 南町一六(電話一七〇番)

### 夏は

キャンブとハイキング  
いつもお供は  
マイコーカメラ  
海も良し!!! 山も良し!!!  
これさへあればいつも朗か楽しい旅行  
このカメラならどんな素人でもキレイな寫真が直ぐ撮れます。

トウゴーカーカメラ 特約店  
MS カメラ  
いづみや玩具店  
カメラ部

平町土橋通り  
電話三一一番

## 歯科口腔外科 レントゲン科

院長 東京齒科 原 精一

## 原齒科醫院

### 軍服と紳士服調製

永年東京陸軍砲工學校の御用を  
承り居りましたが今回當地出身  
將校各位の御聲援を賜はり左記  
へ轉居開業軍服調製に専念致し  
居りますから何なりと御用命の  
程御願申上げます  
尙原品は凡て階行社披品にて軍裝品一  
般についても御便宜取計ひます  
平町田町五十七番地

## 菊地洋服店

電話(呼)二八番  
店主 菊地 一郎  
◎裁縫師、徒弟入用

# 盡忠報國の心に

## 燃えて踏むへタル

### 病床の妻を東京に残し

#### 炎天下を一路點呼場へ

**軍國佳話**  
 昨五日赤井村に執行された平署管下トップ簡  
 點呼に場内取締の爲め出張した平署内勤佐  
 藤巡查が同點呼場の木陰に東京市日暮里署の  
 番號ある自轉車あるを不審に睨んで取調へた  
 處左の如き灼熱を吹き飛ばす軍國佳話が判明  
 係官を感激させた——上小川村生れ當時東京  
 市荒川區日暮里町某機械商店員草野三郎君は今回の  
 點呼に召集されたが妻君が數ヶ月前から病床にあり貧苦  
 のドソ底にあつてどうしても旅費の工面がつかず知人か  
 ら前記の自轉車を借りて遙る々々炎天下にペダルを踏み  
 點呼を受けたものであるが此事が執行官の耳に入り美談  
 として賞揚された

## 簡點呼の

### 成績一般に良い

所在不明の不參者は三名

### 留置され

點呼が不能

平町本籍者二百二十七名の  
 簡點呼は既報の如く今六  
 日午前八時から第一校庭で  
 執行官輜重兵新庄中佐に依  
 り執行午前中は國旗掲揚、  
 宮城遙拜の後、點呼個人點  
 呼各個教練教練閱兵分列式  
 等あり午後からは勅語を奉  
 讀、學科試問訓辭、講評等  
 あつて三時過ぎ無事終了し  
 たが不參は所在不明者三般  
 に名のみで一成績が良かった  
 はた尚明日七寄留者及び神  
 谷村の點呼がある筈

好間村の簡點呼は八日午  
 前七時半から執行されるが  
 同村北好間生當時茨城縣松  
 原町居住の星廣之助(七)假  
 名は第一補充兵で點呼義務  
 を有し乍ら過般來暴力行爲  
 で松原署に留置されて居り  
 參加不能になつてゐる

### 第三校籠球

夏休中練習

平第三小學校の籠球選手二

十餘名は來月四日平第一、  
 第二兩校庭に開かれる第三  
 區籠球大會出場の爲め西牧  
 風岡兩訓導指導のもとに毎  
 日午後四時から二時間猛練  
 習を行つてゐるが同校チー  
 ムは優勝候補として各校よ  
 り注目されてゐる

## 平驛手少荷物激增

昨年よりも一割五分の黒字

平驛で取扱つた七月中の手  
 小荷物類は手荷物は發送高  
 二千六十一個、到着千六百  
 三十六個で昨年比し發送  
 三百八十三個、到着百七個  
 を増し小荷物も發送四千五  
 百九十三個、到着八千四百  
 八十六個で昨年より發送五  
 百五十七個、到着五百七  
 八個夫れも黒字詰めで昨年  
 より一割五分の増である

### 圖書教育研究

本縣  
 圖書教育研究會石城支部の  
 夏季圖書講習會は既報の如  
 く來る二十二日から三日間  
 平第二校で東京府立一中教  
 諭丸野豊、警中教諭柴田善  
 登の兩氏を迎へ開催される  
 が種目は素描、水墨、静物  
 風景人物寫物である

### 警女軍仙臺へ

過般  
 の縣下大會に女師と同點で  
 あり乍ら時間の都合で決勝  
 戦を放棄第二位を甘受して  
 歸校した警女庭球部は今六  
 日仙臺市に開催された宮城  
 庭球協會主催の關東北々海  
 道一般女子庭球大會の制覇  
 を目指し鈴木教諭引卒の下  
 に出發したが出場選手左の  
 如くである

### 平局市外電話

平郵  
 便局の市外電話線は來る十  
 一日から山形縣小國局と通  
 話を開始するが一通話六十  
 錢である

### 平町人事

出生  
 △仲間町五六片寄重二氏二  
 男敏和さん  
 △胡摩澤一〇〇鈴木豊政氏  
 長男範一さん  
 回婚 姻  
 △胡摩澤一〇〇鈴木豊政氏  
 (三〇)高久村大字下高久  
 字中妻五八花澤ハナさん  
 (二六)

### 回死

△鐵冶町齋藤はつさん六八  
 平第一日歸り  
 臨海學校通信 (三)

今日は校長先生が、いらつ  
 しやつた朝の行事をすまし  
 て早速海岸づたいに、四倉  
 へ遠足に出かけた、海岸の

## 花柳病科 外科 院醫科外村木

平町六丁目橋際 電話三〇九番

すぐお書のお膳についたが  
 みな、お腹がすいてゐたと  
 見え、たべるは、六  
 七は、いも一いかに食べた人  
 もあるらし。いしむ汁を  
 七は、いもたべて、またたり  
 ない様なものもあつた豫定  
 の書終るとすぐ記念の  
 寫真を松林と海岸の二ヶ所  
 とつて迎ひの舟につて  
 歸る

## 暑中御伺ひ

釜屋商店

銅鐵商

山田文一商店

平町仲町通り 電話二六二番

平製氷株式會社

社長 木村清治 事務取締役 松本一郎 電話二二八・三一六番

山田麻袋商店

新古賣買 麻袋 內郷村字境 電話平一九二番

渡邊醫院

渡邊 平町ネズミ坂電一六一番

平看護婦會

會長 清野キヨ 平南町電三〇七番

三井タクシー

平 貳丁目 電話六八五番

平會館

平三丁目 電話六二四番

洋食 バツカス

平銀座通 電話七〇二番

# 女の變心を憤り 短刀で滅太突き

## 平検事局活動開始の結果 轢死体の加害者を発見す

### 昨夜浪江校裏の慘劇

平検事局は昨夜午後九時頃浪江署から同町小學校裏で茨城縣多賀郡生れ目下同町神領町二一カフエー港方女給片岡キイ(三〇)を短刀様のものゝ頭部、頸部、顔面等處を突刺し瀕死の重傷を負せ犯人は逃走したとの報告に接し俄然色めきたち捜査の結果加害者は右女給の情夫水戸市澄田二四生れ香具師竹笠登(三〇)と判明

其行衛を厳探した處今朝に至り現場より一里程離れた同郡葛野村大字藤町常磐線鐵道線踏切附近に轢死體となつて発見された、原因は豫ねて懇ろになつてゐた前記キイが最近變心したのを憤り無理心中を企て現場に誘き出して兇行に及んだもので被害者キイは目下同町山田醫院で加療中だが生命は取止める模様である

## うたる暑さに……

### モジりの連發

#### ……市外電話の忙しさ

一日だけで二千四百餘

平郵便局の市外電話係りは此の暑さに眼の廻る忙しさだ、昨五日一日間の取扱つた数は二千四百三十回の多きに達しうだる暑さにモジりの連發、その殺到する市外電話は午前五時頃迄十二三通であつたのが六時から六十六通、八時から百八十通と増し十時から十一時迄が二百十四通で最も忙しく正午が百九十三通、午後六時頃には百十一通に減つて一息する間もなく七時一

## 同窓會も

### 野球部援助

磐城中学校同窓會總會は来る十日午前十時から同校に開き、役員改選、校醫酒井國三郎氏就任四十年表彰の

## 蛭田川改修の

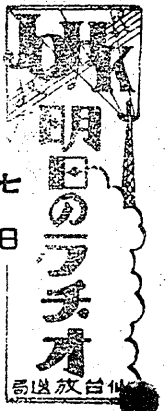
### 事務所を設置

郡南蛭田川の改修は野報の如く本年度は工費七萬五千圓で着工することになり平土木監督所で準備中の處本六日土木課大森技手が工事主任となつて來郡、小林所長と共に直に現場に出張勿來驛と同町窪田間宇小橋地内に工事事務所を建設、愈々本格的に今月末着工の準備を進めることになつた

## 検事の温情に

### 少年感激の涙

双葉郡長塚村農鈴木善藏方雇人神永倉金(一〇)假名は去る四日來平検事局に召喚清田検事取調中であつたが同人は去月二十八日同村長塚驛前三宮堂醫院石川正記氏宛帝都赤組の名で「同村諏訪神社の職立下に金三十



## 明日のラジオ

今日も明日も南西の風晴夕立模様

- ### 今晚の部
- 後六、〇〇 子供日本史
  - 「戦國時代」竹下書磨
  - 後六、二五 趣味講座 史蹟巡り「言問真間鳴立澤」高木武
  - 後七、三〇 講演「我國産業界十年の回顧とその趨勢」門野重九郎
  - 後八、〇〇 謡曲「融」觀世左近他
- ### 明日の部
- 後八、三〇 獨唱 三浦環
  - 後八、五五 義太夫「女舞劍紅楓」(美濃屋の段)豊竹南部太夫
  - 後九、三〇 時報 ニュース 明日の話題 氣象通報 番組豫告
  - 後六、二九 オリムピック大會録音放送 ドイツよ

## 待兼ねた河童連

### 海へ海へと殺到

時節外れの秋風が起つて四倉行き阿童連をガツカリさせて居た天候も漸く昨五日頃から回復したので平驛は待ちあぐんだ浴客で相當混雑し乗車千四百五十三人降車千四百五十五人と去る二日入出に次ぐ成績を上げたが明七日には双葉郡龍田消防組員百名、八日には田村郡日和田青年團員百名須賀川第二校生百五十名の團體が押寄せる等来る九日の日曜が最も期待されてゐる

## コソ泥を

### 共謀で働く

内郷村大字綴生れ當時住所不定中田一正(二〇)假名は白河町で氏名不詳二十才位の青年と共謀でコソ泥を働き五日午後六時頃白河署に逮捕されたか相棒は逸早く栃木縣方面に逃走行方を晦ましたので手配中

## 前借を踏み

### 勝手に鞍替

平町仲町一七卯之吉長女武

- 前七、〇一 朝の修「無門關」神保知天
- 前七、四一 中等學校復習の時間「人生と動物」佐々木喜一郎
- 前八、一〇 小學生おさらひの時間「地理」田邊一郎
- 前八、四〇 婦人夏季講座今日の文化「思想」安倍能成
- 前九、三〇 家庭講座「子供と母の歌のお稽古」弘田龍太郎 審本靖子
- 後九、〇〇 管絃樂 名古屋交響樂團
- 後九、三〇 國民歌謡「朝」青山薫「椰子の實」二葉あき子
- 井みつは(二〇)昭和七年十月
- 中東京市向島區寺島町七丁目飲食店堀田吉次郎方へ前借二百七十圓で酌婦として住込み同年十二月逃走行方を晦ましたので捜査中の處最近になって仙臺市橋下町の某飲食店に實父卯之吉と共謀の上前借三百圓で酌婦稼業をしてゐること判明抱生の堀田から本六日平署へ前借詐欺の告訴された

## 健康診断延期

### 平郵便局従業員の健康相談は本六日から三日間局内で行ふ等の處囑託高久醫師の都合で延期

## 平職業紹介所報告

- 人を求める方
- △出前持 十五、二十才迄 給料五圓
- △同 二十二才 迄給五圓 外仕着
- △泊 二十五才 迄給十圓
- △女中 廿五才迄 給三圓 外チツツ
- △西洋洗濯 三十一才 尋卒
- △コック職工 二十六才同
- △コック 二十四才 同
- △サイドカー運轉手 三十才 同
- △十子守 二才 尋卒

平・田町  
レストサロン  
電三五二番

店主が店員	を連れて行	か	れ	る
正シイ食堂	正シイ喫茶	正シイ酒場	正シイ	正シイ





悟道軒圓玉 (作) 丸尾至陽 (書)

一九〇 黒焼と間違る

官軍の兵士は三河屋幸三郎の腰をおろしてゐた火薬の箱に目をつけたが

〇「貴様の腰を下してゐる箱は何か、何が入つてゐるか」

と聞いた

幸「これは米國人から買ひ入れました薬でございます

兵「大層薬を買ひ込み居つたな」

といつたが、これが火薬とは氣がつかぬ

幸「へエこれは萬病に効能がございます、何のやうな病でもこれを火にあぶりましてせんじで飲みますと忘れたやうになほります」

といつたがこれはそれに相違ない、火薬ですから火にあぶれば破裂して体は粉末になつて飛ぶ、粉末になつて飛べばどんな病氣にか、リ居るとも苦痛はない畢竟生きてゐるから苦しむ

官軍もこれを聞いてウームそんなものが、幸三郎の落付き拂つた態度に疑念もすれ行き

隊「もうこれにてよろしい」

幸「お疑ひは晴れましたか」

隊「よろしい」

幸「たゞよろしいとばかりでは判りません、お疑ひは晴れましたか」

隊「不審と認める點はないぞ」

幸「左様でございますかそれで私も安心いたしました」



といひながら風にゆらめく蠟燭の火をふき消して

幸「あゝ黒焼にもならんだか」

官軍の隊長これを見て、その薬は黒焼かといつたが間違へば間違ふもので、幸

三郎は土蔵を出て茶を入れれを官軍にふるまつて幸「大きに御大儀でございますましたイヤもうこの度はさぞ御苦勞なされたでございますませう、あなたがたのお蔭にて江戸もしづかになり市民も助かりまして有難いことでございます」

幸「たゞよろしいとばかりでは判りません、お疑ひは晴れましたか」

隊「不審と認める點はないぞ」

幸「左様でございますかそれで私も安心いたしました」

兵「イヤ大きに厄介になつたまた、このころに參るぞ、その節は揚出しの豆腐

といひながら、これこそ歴史には出てゐない、幸三郎は官軍の出で行くを見て

幸「まあこれで悪魔を追ひ拂つたが、今日は俺は死ぬものとのみ願つてゐた」

といひました、幸三郎もこの時ほどおどろいたことではないと後々までも申したさうです、これから五日ばかり経つてこの火薬を隅田川の上流へしづめしてまつた。

時に上野の戦ひに黒門口で奮戦した土井伊織は左の肩

それに足に負傷したが不思議に生命は助かり、谷中口まで引きあげたが、さなかうなるとなか、死ぬこと

ののならぬもので、これより谷中の諏訪の臺へ出て諏訪神社の床下に潜伏し

夜に入るを待ち、こゝから根岸までおちて来たが、負

傷した足かひどく痛む、折しもむかふから龜洞を振り

てらして十四五人打ち揃つて来たはその邊を巡邏をする官軍の兵士、これは落人

をとらへるため、伊織はこれを見てこの奴らを相手にこゝで戦つては負傷して居ることゝとらへられるであらう、さりとて逃げれば

彼等の目にとまるであらう目にとまらば射られるに相違ない、むかひは銃も持つ

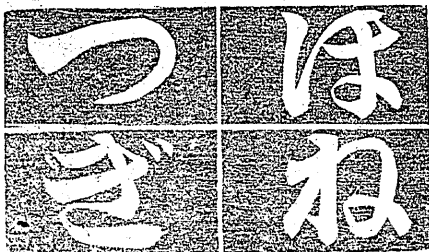
てゐるどうしてこゝを逃れたものかと考へたが、この道の右にあるは一軒の別荘

周囲は黒板塀それに續いて門がある、その門のところ

が暗いから「これ幸ひ」とそれへピタリと身をよせた

この時官軍の兵士は大分近付いて来て龜洞を突きつけ

た、これと同時に潜門がキーンと開いた、伊織はヒラリと中へ飛び込んだ、すると官軍の兵士はバタバタとそれへかけ寄つた。



大河内接骨院

電五八八

平町才樋小路

品自慢と

正直な値段

自轉車・リヤカー

フタバ商會

新川町郵便局前

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話 六八番 醫學士 吉田久雄

婦人科 花柳病科

井坂醫院

平町田町 電話五五九番

海水浴は豊間へ!!

浴場

白砂青松 一日の潮干狩 お家族連れも絶対安全

豊間 海水浴場 沼ノ内 海水浴場 接近・遠淺・磯遊びに好適

名勝 沼ノ内辨財天 賽ノ河原(薄磯) 鹽屋崎燈臺 大敷漁業 二見ヶ浦

設備 (無料脱衣場) 娯樂の設備あり (一疊壹圓内外) 御紹介あれば 御便宜取計ひます

貸問 自動車料金 期日七月十五日ヨリ八月三十一日マデ特別割引 平……豊間片道三十錢 (往復)四十五錢 平……薄磯・沼ノ内片道廿五錢 (往復)四十錢

主催 豊間村青年團 後援 豊間村消防組 野崎自動車部 鈴木自動車部 電話三四三三四〇番 電話二一七番

今年も是非豊間へ!!